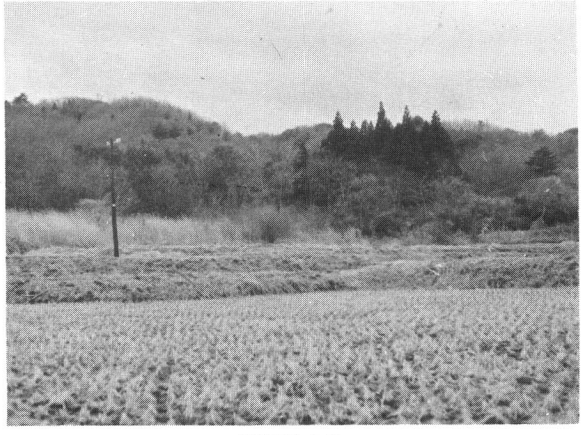
になって村人たちによって、今の大きさのお堂が再建された。旧三月十七日、春祭として復活された。

（話者　古川明）

## 權現様

《小中》



權現様の森

古屋敷の西、菅田の南の方に、權現様と呼ばれている所がある。昔、權現様の社があり、沼があって、藤の太いのが大木にからみ、うっそうと繁っていたので、藤森權現様と呼ばれていた。

この神様は非常にあらだな（荒々しい）神様だった。昔、村の成人がここの藤を切ってハバキ（農耕用のすね当）を造って使ったところ、すねっぱぎに、くっついて離れなかったので、村人は恐れて、ここの藤は切らなかった。

またこの社には、非常に立派な、しろみの鏡（銀の鏡）が納められてあった。村のある人が持ち帰り、自分の家に入ったところ、家中一面に光りかゞやいたので、怖れをなして、また返したといわれている。